

## 小浜・明通寺住職 中嶋哲演さん



なかじま・てつえん 1942年、小浜市生まれ。東京芸大を中退し、高野山大を卒業後に帰郷。68年に小浜市で原発誘致計画が浮上し、自作のピラを配りながら托鉢（たくはつ）に回るなど反原発運動を始めた。現在は大阪原発運転差し止め訴訟原告団代表や、「原子力発電に反対する福井県民会議」代表委員を務める。

## 関西は「消費地元」声上げて

関西電力高浜原発4号機（高浜町）が間もなく再稼働する。小浜市の明通寺住職、中嶋哲演さん（75）は15日、大阪市北区の関電本店前で断食による抗議活動を開始した。半世紀にわたって反原発運動に取り組んできた中嶋さんは、今の原発の再稼働に向けた動きをどうみているのか。

若狭で作られた電力が送られる関西の方々に問いかけた。なぜ原発は若狭だったのでしょうか。人口が少ない地域を踏み合にし、都市は繁栄を圖ってきました。我々はいったい何を犠牲にしてきたのか、倫理的な問いかけをした。

## 再稼働に抗議 関電本店前で断食

し、それを圧倒的多数の国民が是としてきました。都市部は「消費地元」であることを認識してほしいんです。

原発を推進する人たちは「理論的には安全ですよ」と言っていました。でも本当に安全なら、なぜ火力発電所と同じように関西の海岸に建設しなかったのか。東京電力福島第一原発事故のようなことがありうるのと彼らは知っていました。福島や若狭など、全国の過疎地に原発を建設した時点で、彼らは安全神話を自ら否定していたんです。

福島の事故後、原発への不安の声が広がりました。当初は大阪などで数千人や1万人を超える規模の集会も開かれていました。

しかし今、再稼働を望まない潜在的な世論があります。が、関心を示して行動する人たちは減り、風化が進んでいると感じているんです。このまま各地で再稼働が続いていけば、次に原発が止められる

のは「第2のフクシマ」が起こったときになってしまおうと、危機感を抱いています。

原発の新たな安全対策にかけている巨額の資金を脱原発の方向へ使えば、どれだけ生きたお金になるか。電力自由化で消費者が離れつつある電力会社は経済的に追い詰められています。前向きな提言もしていかねばいけません。

私が原発に深い関心を持ち始めたのは、1968年ごろでした。地元の小浜市に誘致計画が持ち上がったからです。

人間は自分に直接的な関係が生まれたとき、初めて関心の目を向けるんです。だから私は都市部のみなさんに偉そうなことは言えないんです。

天正地震（1586年）で若狭湾に大津波が起きた記録も残っています。地震学者だけではなく、歴史や考古学などいろいろなる人に公明正大な調査をしてほしい。「消費地元」である関西のみなさんには、それぞれの地域で声を上げてもらい、再稼働にブレーキをかけてほしいと痛切に願っています。

（聞き手・大久保直樹）